

1. 評価結果概要表

平成 21年 2月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	2071200162		
法人名	北アルプス広域連合		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家		
所在地	長野県大町市大町8035番地 (電話) 0261-22-0497		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成21年2月20日	評価確定日	平成21年3月16日

【情報提供票より】( 21年 2月 6日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤6人	非常勤2人 常勤換算6.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨RC 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要 ( 2月 6日 現在)

利用者人数	6 名	男性	名	女性	6 名	
要介護1	1名	要介護2	1名			
要介護3	3名	要介護4	1名			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	86.4 歳	最低	75 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横沢内科医院 安曇総合病院 市立大町総合病院 佐藤歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大町市役所から1km程南側、高瀬川堤防沿いに併設施設である養護老人ホーム鹿島荘の南にグループホームひだまりの家はある。事業所の西～北側には蓮華岳・爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳と北アルプスが眺められ、事業所の周辺は大きな道路から離れた静かな住宅地が広がっている。併設施設が30数年に亘って築いてきた地域との深いつながりを基盤にして、6人の利用者と職員とで作る家族、少人数であるから出来る心のふれあいと毎日行う夜間の入浴等の寄り添える介護、ご家族同志の強いつながりとなごやかなふれあい、季節に応じた各種の行事と、お互いに支えたり支えられながら日々を重ねる暮らしを支援している。地域からの認識が併設施設に隠れがちになっているので、「『ひだまりの家』ここにあり」と自己主張すべく、21年度に向けて認知症学習会の開催やたよりの地域への回覧などに取り組み計画である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は6項目あり全て改善されていたが、重度化や終末期に向けたご家族との連携は、引き続き課題として取り組まれ対応指針を作成するなど、ご家族の安心に繋げることを望みます。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の経験も多く、パートを含む全職員で、その意義も充分理解し、共有化も図り、数ヶ月に亘って取り組んだ。その中で気付いた改善点については翌年度の事業計画に盛り込むなどの具体的な取り組みをしていた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	年4回開催し、構成メンバーや協議内容共に充実している。事業所からの状況説明に対しては灯油の値段、介護報酬の値上げの件、付き添いの状況など事業運営に関する積極的な意見が出され、事業所側も的確に説明していた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年2回の家族会、面会時、必要に応じての電話連絡等利用者の暮らしぶりの報告の折に、ご家族の思いや意向を聞くよう努めるとともに、言いやすい雰囲気になるよう心掛けている。家族会では、ご家族だけの話し合いの場も設け、気軽に思いが言えるよう配慮されていた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設施設の地域とのつきあいの基盤があるため、地域と合同で行う納涼祭への参加、保育園児参加の運動会など、地域との連携は良好である。グループホーム独自の交流は重度化もあり、日常的な散歩時の挨拶等は少なくなったが、事業所として認知症の学習会の開催や地域へのおたよりの回覧など地域への発信を計画中である。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつも心にひだまりを」を理念とし、「ひ・だ・ま・り」の文字を使って、「尊厳・地域とのつながり・その人らしさ・共に歩む」ことを盛り込んだ事業所独自の理念にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会(月1回)や勉強会(隔月)を通じて理念の共有化を図るとともに、ホーム内に誰でもわかるように掲示されていた。利用者や職員との会話の中から理念の具体的な実践に日常的に取り組んでいると感じた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所のある大新田地区は併設施設のこれまでの長い付き合いがあり結びつきも強く、その延長線として交流や付き合いが出来ていた。納涼祭での地域との合同開催や保育園児参加の運動会など併設施設と共に行う交流が主となっている。道路事情、住宅地、重度化等により日常的なつきあいは少なくなっている。		グループホームひだまりの家としての独自の付き合いをすることにより、認知症の専門事業所としての意義を地域の方に理解していただくことも大切である。地域貢献も含めて、地域の方の認知症や老いに対する不安解消のために学習会等の開催の企画など、事業所側から地域へ向けての発信への積極的な取り組みを期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の経験も多くなり、今回も職員会とは別に自己評価する機会を数ヶ月に亘って設定し、パートを含む全職員で取り組んだ。その中で気付いた改善点については翌年度の事業計画に盛り込むなどの具体的な取り組みをしている。		

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年4回開催し、構成メンバーや協議内容も充実している。事業運営について地域や外部の目から見た率直な疑義について質問等があり、委員が積極的に事業所に関わろうとしている姿勢が感じられた。開催回数については支えている委員の方の負担にも配慮しつつ検討されることを望みます。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>保険者である北アルプス広域連合が設置者であるという特殊な事業所であるため連携は良好であり、課題解決への理解や支援が得やすくなっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年2回の家族会、面会の折、必要に応じての電話等により暮らしぶりや健康状態を報告している。ひだまり通信は年2回発行し、日頃は見せない行事での利用者の様子を伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話連絡の折にご家族の意見や思いを聞くように努めるとともに、言い易い雰囲気になるよう心掛けている。年2回の家族会では家族だけの話し合いの場を設け気軽に思いが言えるよう配慮し、提案されたことは全職員で共有し運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は臨時、パート職員が主であり、長期雇用できる体制を整えているので異動に伴うダメージは少なくなっている。又、新任職員には信頼を得ている職員と2人に対応する等の配慮もしている。</p>		

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個々で自己研鑽のための研修会に参加している。事業所内では隔月で勉強会を行い、持ち回りで職員がテーマを決め、準備し、説明者となっている。聞くだけの研修より自ら講師となることのほうがより深い学習の機会となると感じ、引き続きこの形で事業所内の研修を行うことを期待します。自主参加の研修会への事業所としての金銭的援助の必要性を感じた。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大北地域の4事業所によるネットワーク作りの方向性が芽生えている。県グループホーム連絡会に加盟していて県内の事業所への見学や情報交換は、これまでに行われていた。</p>		<p>21年度には大北地域のネットワークを立ち上げることを望みます。ネットワークによる相互訪問や情報交換等にはデメリットもあるので長続きできる組織作りのため、発足時の話し合いを十分にされることを望みます。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>これまでの入居はスムーズであり、特段の配慮の必要はなかった。今後は事前に信頼関係を築いて、利用者自身が安心して納得して入居できるよう、来所して1日を過ごしてみるなどの配慮を検討中である。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員で作る家族関係をモットーにしており、お互いに支えたり、支えられながら日々を重ねていけるよう取り組んでいる。午前のおやつ、昼食を共に過ごさせていたが、なごやかで会話も楽しく、歌も聞かせていただき、忘れかけていた家族団らんの良さを感じた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の言動を注意深く観察し、出来ること、出来ないこと、したいことの把握に努めている。又、意向や訴えの裏側にあるものを見つけて受け止めるようにしている。意思疎通の困難な利用者には「その人にとって今何が必要か」を汲み取るよう努力している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>課題分析はセンター方式を活用し、ケアマネージャーが中心となり、利用者やご家族の思いや意向を聞いて、介護計画の原案を職員会議で検討し、全職員の意見を聞いて作成し、共有化を図っている。介護計画書はご家族に來所していただき、説明し了解を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的には3か月に1度見直しを行っている。ケアプランに基づいた記録により、利用者やご家族の満足度、目標の達成度の調査を行い、今後の対応を検討し、次の介護計画に繋げていくという流れで評価見直しをしている。職員会議でカンファレンスを行い、必要時には計画の修正や追加をし、心身の状況の変化時には随時の見直しを行っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>在宅ターミナルを希望する利用者やご家族に対する退所までの支援や連絡調整、重度化傾向にある利用者の、ご家族に対する昼食サービスや一時的休息の場の提供など事業所の多機能性を活かした支援をしている。</p>		

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科医については入居時に利用者やご家族の了解を得て事業所の協力医療機関としている。緊急時や緊急入院の協力などの確な医療対応が充分に出来ている。精神科や歯科の治療については利用者やご家族の希望を聞いて訪問診療を依頼している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期については予測される中でご家族と医師が話し合う機会を持ち、利用者ごとの現状に合わせ、カンファレンスを通して方針を共有している。ターミナルケアは1件経験しており、この経験は今後の対応のためには良い一歩となったと感じます。</p>		<p>重度化や終末期の対応は個々のケースにより様々な形を取るようになるが、事業所としての基本的な対応指針を作成し、職員への共有化を図ることは職員も安心であるが、不安を抱いている利用者やご家族の安心にも繋がる。事業所として出来ること、出来ないことを精査し基本的指針を作成することを望みます。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>理念にも「ひとりひとりを尊重し」と掲げ、勉強会を通じて倫理や人権について学習し共有化を図っている。又、利用者の尊厳を傷つけるような言動がないよう職場全体で取り組んでいる。記録は個々にファイリングされ個人情報の取り扱いに注意している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の基本的な流れはあるが、利用者が家で暮らしていたように対応するよう努めている。外出する、歌を歌う、風習や料理の味付けを教わるなど職員側からのきっかけ作りにより利用者が主人公となり、その流れに沿って見守り一緒に生活を送れるよう支援している。</p>		

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備、盛り付け、片付け、洗い物等利用者の出来る範囲で食事作りに携わってもらっている。片付け等のお手伝いは嫌いだが生産の楽しい場作りは上手な利用者、食後の一時に北安曇郡歌を歌う利用者とそれぞれの持ち味を活かしながらのなごやかな昼食風景になっていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により入らない人もいるが、基本的に入浴は毎日であり、県内でも例がない全利用者の夜間入浴を行っている。夜間入浴は、これまでの生活の継続性が保たれ、入浴拒否者もなく、加齢臭もなくなり、安眠に繋がっている。入浴剤や菖蒲湯、ゆず湯なども実施し、楽しく入浴できる工夫もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おやき、繭玉、おはぎ作りなど利用者にとっての昔取った杵柄を發揮してもらいながら、楽しみごとや気晴らしになる支援をしている。ひな祭り、十五夜などの季節行事、方言や風習を教わり、潜在している記憶や出来る力を活かせるよう働きかけている。誕生会は楽しみのひとつになっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度化、道路事情、住宅地(日中人が居ない)などにより地域に出掛ける日常的な散歩は少なくなったが、敷地内での散歩、畑作業、月1回の買い物デイなど気分転換や季節を肌で感じる機会の支援は出来ている。一泊旅行、花見、紅葉狩り等の遠出の外出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束の観点から勉強会を通して学習し、全職員の意識の共有化を図り、日中は鍵を掛けない対応をしている。入り口にはセンサーを設置すると共に、こまめな安否の確認を行うなどの配慮もされていた。		

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年3回、夜間想定を含めて併設施設と合同で、地域住民の参加のもと、防災訓練を行っている。消火器や消火栓の取り扱い、地震体験車の活用、利用者には避難用の防災頭巾の準備、防災設備等災害に対する備えは充分に出来ていた。地域との防災協定を締結する予定になっている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は併設施設の管理栄養士が作成し、食材の状況により若干の修正をしているが、栄養バランスは良い。水分量や食事を個別に把握し的確な量が摂取できるよう支援している。個々の利用者の心身の状況に合わせて食事形態や補助食などで対応もしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間は一段上がって畳の間となり、テレビやソファがありゆっくり過ごせる場となっていた。食堂は台所と繋がっており、調理の音や匂いを感じることができる。台所は電子調理器のため清潔であり、整理整頓が行き届いていた。居間と食堂は柱や梁が露出して木の暖かさが感じられた。壁には貼り絵の作品、古い着物、パッチワークなどが飾られ、居心地よく過ごせる共用空間になっていた。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室はたんす、写真、時計、飾り物等利用者の馴染みの物が置かれ、利用者ごとの思い思いの部屋になっていた。窓からの採光もよく、入り口にはそれぞれの暖簾が掛けられ、若い頃の貼り絵の作品や習字が飾られた部屋もあり、ゆっくと馴染み、居心地よく過ごせる居室になっていた。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。